

スクールポリシー 令和4年度評価

<p>グラデュエーション・ポリシー： 「社会に貢献できる基礎基本を身につける」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生としての基礎学力 ・社会人としての基礎基本：挨拶、規範意識、時間厳守、整理整頓 ・責任ある大人として、自分で考え、判断し、行動する力 ・グローバル社会の中で、多様性を尊重し、対話を通して他者と協働する力
<p>カリキュラム・ポリシー： 「成功体験の積み重ねを通して自主的な学びへと向かう」～ 小さな「できた」を大きな「やれる」へ～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を定着させるために繰り返し取り組む ・学びの質を高めるためのICT機器の活用 ・グループワーク、ペアワークなどの協働を通して、異なる意見に耳を傾ける ・自分の意見を持ち、発表活動へと発展させる
<p>アドミッション・ポリシー： 「かなえたい夢のある生徒」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して努力する意欲のある生徒 ・自分を大切にし、他者も尊重できる生徒 ・ひとつ上の自分を目指してチャレンジする意欲のある生徒
<p>グラデュエーション・ポリシー： 「社会に貢献できる基礎基本を身につける」</p>	教員評価
指標1:高校生としての基礎学力をつけられる取り組みを十分行った(GP)	3.5
指標2:社会人としての基礎基本(挨拶、規範意識、時間厳守、整理整頓)を身に付けられる取り組みを十分行った(GP)	3.5
指標3:責任ある大人として、自分で考え、判断し、行動する力を付けられる取り組みを十分行った(GP)	3.5
指標4:多様性を尊重し、対話を通して他者と協働する取り組みを十分行えた(GP)	3.6
<p>カリキュラム・ポリシー： 「成功体験の積み重ねを通して自主的な学びへと向かう」～ 小さな「できた」を大きな「やれる」へ～</p>	教員評価
指標1:基礎基本を定着させるために繰り返し取り組めるよう、その手立てを十分行えた(CP)	3.6
指標2:学びの質を高めるためのICT機器の活用について、その取り組みが十分行えた(CP)	3.7
指標3:グループワーク、ペアワークなどの協働を通して、異なる意見に耳を傾けられる活動を十分行えた(CP)	3.7
指標4:生徒が自分の意見を持ち、発表活動へ発展できる活動を十分行えた(CP)	3.4

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和4年度 1年生(49回生)

1年生	目標1:学習習慣の確立と学習環境の充実		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員	
	指標1:朝学習や授業を大切にし、学習習慣を身に付けることができた		3.0			2.9				3.7
	目標2:ルールを守ろうとする態度を養い、社会に参画する態度を身に付ける		2.9			3.0				3.4
	指標2:自らの進路について考え、積極的に情報を集めることができた		4.3			4.3				3.6
	指標3:他者を思いやりと共に自分を大切にし、豊かな人間関係を築くための素地を養う		4.4			4.1				3.6
指標4:友人関係を大切にして学校生活を送ることができた										
具体的取組		自己評価								
目標1	(1)朝学習を取り入れ、スムーズに授業に接続できるように準備等を含め学習する態度や学習に対する全体の雰囲気向上させる。 (2)進路学習を通して、自分の進路に対して早い段階から意識させ、目的を達成するためのプロセスや努力の必要性を考え、実行させる (3)授業を大切にするためにも対話型・グループワーク型の授業をできるだけ多く取り入れ、生徒たちが主体性をもって取り組めるように配慮	朝学習の取り組み姿勢から授業に臨む態度に至るまで担任を中心に手厚い指導が行われてきた。当の本人たちの学習に対する意欲の低さが障壁となっていることを踏まえて成績の向上にまで導くことと将来へ向けた取り組みが甘い生徒への指導が次への課題となっている。								
目標2	(1)基本的な生活習慣を確立させるためにも、毎朝玄関で挨拶を通して遅刻者や身だしなみなどを確認し、違反生徒0人を目指す。 (2)無断欠席や校則等が守れていない生徒には、粘り強く生徒と対話し、問題点を指摘しそれが改善できるように共に歩む姿勢を大切にする。その際保護者とも協力し、無断遅刻・無断欠席0を目指す。	頭髪、服装、身だしなみも違反する生徒は非常に少なく、学年外の先生の注意にも素直に耳を傾け、善悪の基準を自ら理解できるようになりつつある。無断遅刻も2学期をピークに一桁まで数を減らしてきた。								
目標3	(1)いじめに対しては絶対にしてはいけないものとして毅然とした態度で指導し、いじめ件数0を目指す (2)人の話を聞く姿勢や相手を思いやる発言を大切にできるように普段の関わりの中で、良識ある言葉遣いや相手を敬う態度を身に付けさせる	いじめについては生徒たちもあってはならないことであると認識できており、希薄な友人関係から生じる問題行動も早期対応できているためか、いじめとしての指導件数は0件であった。								

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和4年度 2年生(48回生)

2年生	目標1:自分自身を律する力を育てる	1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
	指標1:規範意識を高め、自身を律する力をつけることができた			3.5			3.3	
目標2:他者との対話を重ね、豊かな人間関係を築くことができる力を育てる								
指標2:他者との対話を重ね、豊かな人間関係を築くことができた			3.8			3.5		3.6
目標3:自立する力を育てる								
指標3:自らの進路について考え、積極的に情報を集めることができた			3.4			2.9		3.4
指標4:授業や補習を通じて、学ぶことの意味を理解し、学力を向上させることができた			3.2			2.8		3.6
	具体的取組	自己評価						
目標1	(1)集会等、集団で行動する際に、他者へ配慮することを徹底する。集合時間に点呼が完了するよう習慣づける。 (2)朝自分で起きて、学校に遅刻せず登校する。1学期より2学期、2学期より3学期と遅刻数が減少するよう、継続して粘り強く指導する。	(1)おおむねできている。修学旅行では、特に時間を意識した行動ができた。 (2)特定の生徒が遅刻することが多い。これら生徒の指導を来年度に向け、徹底する。						
目標2	(1)授業のなかで異クラス・異性の集団を意図的に作り、普段関わりの無い者とのペアワーク・グループワークを増やし、対話する機会を設ける。 (2)教員が指導する際に、生徒自身に考えさせ、自分の言葉で意見が言えるように対話する。 (3)他者を尊重する態度を育てる。そのために教員自らが言動や行動を振り返り、生徒を尊重できているか自問する。また、対話をするためには他者を尊重することが最も重要な要素であることを粘り強く指導する。	多くの教科でペアワーク・グループワークによる取り組みが行われた。授業内で対話する機会を多く設けることができた。指導する際に、自分で考え話させることは徹底できた。他者を尊重する態度を育てることが次の課題である。						
目標3	(1)進路実現に向けて、自分自身が動いて進路先の情報を集めるよう指導する。未定の者が多く予想されるが、「仮決め」をすることで実際に情報収集する行動を促す。 (2)学校の中心となる学年であることを繰り返し呼びかけ、自覚を促す。実際に生徒会活動、部活動で中心となっているメンバーにリーダー教育を施す。 (3)通常の授業や補習を通じて、学ぶことの意味、大切さを伝え、学びのベクトルが上を向く生徒を育てる。	マナトレを実施し、基礎学力の定着を図った。学力テストでの結果に反映されている。大学進学プログラムを実施し、大学の情報収集をさせた。生徒会活動、部活動では中心学年としての自覚をもって精力的に活動する姿が見られた。						

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和4年度 3年生(47回生)

3年生	目標1:自己を律する力を育てる	1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
	指標1:規範意識を高め、自身を律する力を付けることができた			3.5			3.6	3.8
3年生	目標2:進路実現に向けての学習習慣の確立と学力の充実・向上							
	指標2:進路実現に向けて、学習習慣を確立することができた			3.4		3.7	3.8	
3年生	目標3:特別活動・課外活動への積極的参加により、人間性を高める。							
	指標3:自らの進路を定め、学力を向上させることができた			3.5		3.8	3.7	
3年生	指標4:学校行事や校内清掃、部活動に積極的に取り組むことができた			3.6		3.7	3.9	
	具体的取組	自己評価						
目標1	<p>(1)社会人としての規範意識の面で、生徒指導を徹底する。特に進路の面接において身だしなみは、重要なので、身だしなみ指導を重点的に行う。指導の中で、生徒と話し込むことで、何が悪く、何をすべきかを理解できるようにして、自ら正す力を身に付けさせる。身だしなみ指導は、現在、90%の生徒が守れるようになっている。守れない生徒も、話を素直に聞き入れるようになってきている。</p> <p>(2)立派な社会人として、挨拶、規範意識、時間厳守、整理整頓ができるように普段の学校生活において生徒の様子を丁寧に観察し、出来ていない部分があれば、社会人としてどうあるべきかを考えさせて指導を行う。</p>	<p>①入学時から継続して行ってきた服装、身だしなみ指導では、全員ではないが、実際に直せる生徒が増えてきたし、指導を通して、教員との信頼関係も構築できるようになった。自分で考えて身だしなみを正せるようになったのは、大きな成長であると考えます。</p>						
目標2	<p>(1)オープンキャンパスの参加や面談を通して教員と進路について積極的に話し合い、進路目標を設定する。また、将来につながる大切なことなので、家庭との連携も密にする。</p> <p>(2)定期考査前の補充授業や平常補習、夏休みの補習、週2回の朝の小テスト等を実施することによって、勉学に励み入試・考査に臨む意義を理解させ積極的に取り組ませる。</p> <p>(3)小論文指導、面接指導を適宜実施し、丁寧な指導を行う。進路の達成に向けて力が着くまで、繰り返し行う。また、模試の分析など入試への意識と入試に向けた力を向上させる。</p> <p>(4)放課後、補習や自習のための学校で学べる場を設置し、学習環境を整える。特に図書室は、個別のブースがあるため、図書室利用を強く推奨する。</p>	<p>②先生方のおかげで、多くの生徒が進路実現できた。特に本校の特色である看護希望者は、ほぼ、進路先を決めた。早い時期からの進路集会、補充、小テストなどの学力向上プランの実施、個人面談など、積み重ねの生徒との対話、様々な事が実を結んだ結果である。</p>						
目標3	<p>最高学年としての自覚と責任を持ち、学校の中心となってHR活動・生徒会活動・憧華祭・体育大会等の特別活動やクラブ活動に積極的に取り組み、コミュニケーション能力、リーダーシップ、責任感、社会性、協調性等を高め、人として成長する。学年通信に生徒の作文を載せることによって、その成果を示す。</p>	<p>③第三学年として、後輩の見本となるような行事に取り組む姿勢を見せた。そこから、学習以外の多くのことを学んだ。</p>						

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和4年度 総務部

総務部	目標1:開かれた学校づくりと適切な情報発信	1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
	指標1:ホームページや学校からのお知らせを通じて宝塚東高校の取り組みや活動等、学校への理解が深まった	2.8	2.8	3.0	3.2	3.0	3.4	3.3
目標2:防災教育の充実								
指標2:防災に関して意識が高まった	3.3	3.2	3.4	2.9	2.7	3.0	3.6	
目標3:図書室の利用状況の向上								
指標3:自習ブース利用や図書閲覧で図書室を活用できた	1.9	2.3	3.3	2.1	1.9	2.6	3.3	
目標4:様々な人権侵害について、学び、差別やいじめを予防する								
指標4:人権LHRや人権講演会を通して、人権意識が高まった	3.2	3.2	3.0	2.8	2.7	3.0	3.5	
目標5:情報機器を利用しやすい環境の構築								
指標5:学校内で情報機器を利用しやすい環境にあった	3.4	2.9	3.1	3.1	2.6	3.1	3.6	
	具体的取組	自己評価						
目標1	(1)オープンハイスクール公開授業、ホームページ等での広報活動を通して、中学生や保護者に向けて本校の魅力を積極的に発信する。 (2)中学生、中学校関係者に配布する「学校案内」を工夫し、本校が育てたい生徒像等がわかりやすく伝わるようにする。 (3)上記(1)・(2)の取り組みにより、平成5年度入試の志願者数(第一志望)の昨年度比40名(1クラス)増をめざす。	(1)夏季・秋季オープン・ハイスクールでは、説明がわかりやすい、学校の様子が良くわかった等、多くの方々から好評を得た。また、本校では、来校者の接遇、誘導、案内、全体の司会、説明の一部を生徒が担当して実施している。このことについても多くの参加者から評価していただいた。課題としては、参加者数が少ないことである(合計509名)。来年度は、本年度より多くの方々に参加いただけるよう、さらに広報活動に力を入れていきたい。 (2)「学校案内」は、スクールポリシーを明確に打ち出し、本校の特色、取組をわかりやすく理解していただける内容となったと自負している。学校案内を、多くの方々に見ていただけるよう、本校ホームページに掲載した。						
目標2	(1)避難訓練を年に2回行うとともに、全校集会等を通じて防災教育に取り組む。 (2)消防署等関係機関の協力を得て、より効果的な防災教育を行う。 (3)防災マニュアルの内容の更新、見直しを行う。	(1)避難訓練を年に2回行うとともに、全校集会等を通じて防災ジュニアリーダーの活躍も紹介できた。 (2)消防署等関係機関の協力を得て、避難前の心構えの周知が出来た。また、避難時に行方不明になる役の生徒を決め事前に打ち合わせを行い、職員が捜索するという実践的な訓練ができた。避難時間を計測することによって、避難のスピードを意識することが出来た。 (3)防災マニュアルの内容の見直しを行った。						
目標3	(1)昨年度の貸出人数は54名であった。新刊等を増やし、今年は100名になるよう取り組みたい。 (2)自習する生徒が増えるよう、環境を整えたい。	(1)今年度の目標は達成できなかった。今後引き続き取り組みたい。 (2)学年の指導もあり、特に放課後自習を行う生徒が増加した。						
目標4	インターネット上における人権侵害、セクシャル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンス(DV)、デートDV、ヘイトスピーチ、性同一性障害等、性別に起因する諸問題の解決が課題として挙げられるが、今年度は、「インターネット上の人権」とともにデートDVに対して人権LHRや講演を行い、理解を促しいじめや差別を予防できる環境を整える。	生徒指導部と連携し4月に警察講話、12月に生徒も参加しデートDVの講演会を実施できた。 友人の画像をSNS上に投稿する者は数は少ないが存在するが、学びを行動へと移せるようこれからも指導していく。						
目標5	GIGA スクール構想の実現に向けた環境整備を行う。	井本興行様、但馬銀行様のご寄付により、アップルTVが全教室に施設できた。多目的教室にもプロジェクターを設置し、どの教室でも同じ環境で学習できるようにしたい。						

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和4年度 教務部

教務	目標1:ICTを活用した基礎・基本的な内容の定着・充実		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
	指標1:プロジェクタやテレビモニターを使った授業やGoogle Classroom、iPadを活用して、基礎・基本の内容を身に付けることができた		3.6	3.2	3.3	3.2	2.9	3.1	3.9
	目標2:自ら学ぶ意欲を育てる								
	指標2:自ら進んで学習する意欲を高めることができた		3.0	3.1	3.2	2.9	2.7	3.5	3.5
指標3:個々に応じた学習指導を受けることができた		3.0	2.9	3.2	2.7	2.6	3.2	3.5	
具体的取組		自己評価							
目標1	<p>①(1)ICTを用いた学習支援が行えるような研修機会をもうける。</p> <p>(2)基礎的・基本的内容を個別的・反復的に学習できるようなシステム導入をすすめる。</p>	<p>①複数の研修会をはじめ、モノグサ、ロイロノート等ICTを用いた学習の導入支援を行い、特に1年生を中心としてタブレットを用いた個別反復的な学習ができる環境を整えた。</p>							
目標2	<p>②(1)「学びに向かう力・人間性等」の評価の観点を明確にし、生徒の自ら学ぶ姿勢を育む授業づくりについて教科横断的に理解を進める。</p> <p>(2)グループワーク、ペアワークなどの研修機会を利用し、アクティブラーニングの観点をふまえた授業づくりを推進する。</p>	<p>②教員研修と連携して、アクティブラーニングへの理解を深め、さらに授業見学週間を活性化することで教員間の授業力の向上に貢献した。来年度以降さらなる検討を行いたい。</p>							

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和4年度 進路指導部

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
進路指導部	目標1:キャリアプランニング能力の育成							
	指標1-1:総合的な探究の時間や進路ガイダンスを通して、「働くこと」や職業について考えることができた。	3.4			3.2			3.6
	指標1-2:進路ガイダンスやオープンキャンパス等を利用しながら、将来の職業について考えたり、進学についての情報を手に入れたりすることができた		3.4			3.0		3.6
	指標1-3:自分の生き方や将来の職業について主体的に考え、進路目標達成のために情報を収集したり、具体的な取り組みを行ったりできた			3.5			3.8	3.5
	目標2:自己理解・自己管理能力の育成							
	指標2-1:総合的な探究の時間等を活用し、自分の個性や適性について考えることができた	3.2			3.0			3.7
	指標2-2:学習ポートフォリオや学校行事への振り返り、進路指導室利用等を通じて、自分についての理解を深め、進路目標達成に向けてどのように行動していくべきかを考えることができた		3.1			2.8		3.4
	指標2-3:進路目標達成に向けて自己分析を行い、自分の特長や、今後身に付けるべき力について考えることができた。			3.4			3.8	3.6
	目標3:人間関係形成、社会形成能力の育成							
	指標3-1:総合的な探究の時間等を通じて、他者とのかかわり方について考えることができた	3.4			3.1			3.6
	指標3-2:他者の考えや立場を理解し、力を合わせて取り組むことの大切さを学ぶことができた		3.5			3.3		3.6
	指標3-3:社会人としてふさわしい言葉遣いやマナーを身に付けることができた。			3.6			3.7	3.5
具体的取組		自己評価						
目標1	(1)職業観育成のためのガイダンスや職業体験を企画立案する。 (2)総合的な探究の時間(1年)や特別活動を活用し、自己の在り方や「働くこと」について考える取り組みを企画する。 (3)適時情報を提供するとともに、情報の取捨選択、活用、主体的判断等について支援する。 (4)自分の生き方や将来の職業選択等について何の展望も持たないまま卒業していく生徒をなくす。	①学年の協力を得ながらガイダンスや職業体験の機会を設けたり、総合的な探究の時間の学習内容の企画立案を行ったり、職業観育成に努めた。低学年生徒が個別に進路指導室を訪れ、進路指導部教員に職業選択について相談する姿が当たり前の光景となってきた。3年生の就職希望生徒に対しては年度当初より職業観のさらなる深まりを目指し継続的な指導を行い、学年の協力も得て、学校幹旋の就職希望者の内定率は100%となった。						
目標2	(1)総合的な探究の時間(1年)を活用し、自分の個性を発見したり、適性について考えたりする取り組みを設ける。 (2)進路指導室における相談の機会等を通して、今後の可能性の肯定や主体的な行動について支援を行う。 (3)学習ポートフォリオや行事ポートフォリオへの取り組みを通して、自己理解を進めていく。	②学習ポートフォリオや種々の学力テスト、総合的な探究の時間を始め、学年と協力しながら生徒がより良い自己理解を行えるよう支援を行った。また、進路指導室内の資料の配列に工夫を講じ、生徒の進路指導室利用促進に努めた。進路指導室を利用した進路相談といった、学年の積極的な取り組みにも支えられ、低学年からの進路指導室利用が昨年度よりも増加傾向にある。						
目標3	(1)社会人としてふさわしい言葉遣いやマナーの涵養に、全職員と協力して取り組む。 (2)多様な他者の考えや立場を理解し、協働するトレーニングの場を設ける(1年総合的な探究の時間)。	③全職員に協力を仰いだ言葉遣い指導であるが、顕著な変化が見て取れるというところまでは至っていない。しかしながら、日々の生徒の言動や、熱心に指導に当たってくださっている先生方の姿に、緩やかであるかもしれないが、好転の兆しを感じている。今後も、社会形成能力の育成に向けた継続的な指導が必要であると考えている。						

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和4年度 生徒指導部

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
生徒指導部	目標1:「生きる力」を育み、自己肯定感の育成を図る。 指標1:時間を意識して、遅刻をしないようにし、基本的な生活習慣を確立させることができた	3.9	3.6	3.6	3.6	3.6	4.0	3.3
	目標2:自律型高校生を育み、何事にも挑戦する態度を醸成する。 指標2:自ら進んで挑戦する態度が身に付いた	3.3	3.3	3.4	3.1	3.2	3.5	3.2
	目標3:学校・家庭・地域・警察を含む関係機関との連携を図り、生徒の健全育成及び問題行動の未然防止に努める。 指標3:様々な人々に支えられ、信頼されていることを知り、善悪の判断の意識が高まった	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.8	3.3
保健	目標1:保健活動の推進 指標1:保健日より等により、健康への意識が高まった	3.0	3.0	3.1	2.9	2.8	3.1	3.5
	目標2:疾病の予防と早期治療、生活習慣の確立 指標2:疾病への意識が高まり、規則正しい生活習慣が身についた	3.2	3.1	3.2	3.0	3.0	3.5	3.3
	目標3:教育相談活動の推進と「合理的配慮」の適切な提供 指標3:カウンセリング等、相談できる環境が整っていた	3.2	3.0	3.1	3.0	3.0	3.2	3.7
	目標4:安全点検の励行と事故防止							
具体的取組		自己評価						

生徒指導部	目標1	①基本的な生活習慣を確立させる (1)時間を守る 遅刻をしない意識を根付かせる。(年7297件を半減3500件) (2)環境整備 場の雰囲気大切にさせる。ゴミを出さない、捨てないことを徹底させる。 (3)挨拶 挨拶の励行、服装を整えさせる。(スカート丈違反0の継続、ネクタイリボン忘れ0へ) (4)学習に取り組む雰囲気づくり チャイムでの着席。	①基本的な生活習慣の確立させる。 ○遅刻:年7297件から年5717件、各学年減少傾向。特に3年生は700件減少。 ○環境整備:美化ウイークの各学期に1回実施。部活動による校外清掃実施。 ○挨拶:生徒会による挨拶運動、服装を整えさせる。(スカート丈違反が減少)
	目標2	②学校行事に主体的に取り組ませ、充実感と自己有用感を積み上げさせる。 (1)「生徒会アワー」「憧華祭」「球技大会」等各種学校行事において、多くの生徒にリーダーシップを執らせることで、積極的に取り組む姿勢を育てる。 (2)行事の意義や価値を理解させ、マネージメントの手法を理解させる。また、部活動においてはキャプテン・マネージャーミーティング(CMミーティング)を通じて部活動生徒のあり方や行動を徹底させる。 (3)生徒に主体性をもって校則を考えさせ、生徒の意見を取り入れた校則の見直しを実施する。	②学校行事に主体的に取り組ませ、充実感と自己有用感を積み上げさせる。 ○「憧華祭」「球技大会」「部活動」等特別活動において、多くの生徒にリーダーシップを執らせ、積極的に取り組む。 ○休日の部活動着登校について生徒に主体性をもって校則を考えさせ、生徒の意見を取り入れた校則の見直しを実施した。
	目標3	③安全・安心な学校づくりに寄与する (1)関係部署と情報を共有する。 (2)常に生徒と向き合う姿勢を発信し、相互理解の礎を構築する。 (3)いじめに対する未然防止と問題発生時の早期対処を徹底する。	③安全・安心な学校づくりに寄与する いじめアンケートを年3回実施し、いじめに対する未然防止と問題発生時の早期対処を徹底する。
保健	目標1	①(1)コロナウィルス対応策を継続し、Withコロナの生活を確立させる。 (2)学校保健安全計画の立案、実施による健康管理保健教育の徹底させる。 (3)生徒保健委員会の自主的な実践活動の促進を図り、保健活動への意識を高める。 (4)生徒の心身における健康意識を高め、生徒指導部とも連携し、遅刻・欠席の数を10%減少させる。	①コロナウィルス対策については、手洗いうがい・手指消毒の徹底、昼食時の注意事項を放送で流すなど、基本的な感染予防対策を講じた。昨年度に引き続き前述した対策を講じてきたことから、生徒の意識も高まってきたように感じる。また今年度については、インフルエンザも流行していることから、日常から基本的な生活習慣を確立させ、免疫力を高めていく必要性を強く感じた。
	目標2	②(1)学校医・委嘱医療機関・地域社会との連携による疾病の予防と早期治療の指導を行う。 (2)生徒指導保健部、また保健体育科・家庭科などとも連携し、規則正しい生活習慣を身につけさせるための取り組みを行う。	②年度当初に各種健康診断を実施し、疾病の予防と早期発見・早期治療を進めることができた。またキャンパスカウンセラーとも連携し、生徒の内面理解を図るとともに、問題の解決に向けて対策を講じることができたように思う。
	目標3	③(1)教育相談委員会を中心にした相談体制の充実を図る。 (2)個人面談やキャンパスカウンセラーによるカウンセリング等を通し問題の早期発見に努める。 (3)教職員に対するカウンセリングマインド研修会を実施する。 (4)個々の状況に応じた合理的配慮の実施と情報の共有と研修を行う。	③特別支援教育相談委員会を年3回実施し、配慮の必要とする生徒について、情報共有と対応の仕方について協議を行った。多種多様な生徒が在籍する中で、個々の状況に応じた対応を共有することができたのは有意義であった。
	目標4	④(1)安全点検の励行による学校管理下における事故防止の推進を図る。 (2)生徒個々の安全意識を高める指導を行う。	④学校管理下における事故防止の推進という点については、安全衛生委員会や事務室と連携をして整備を進めることができた。

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和4年度 総合健康類型

総合健康類型	目標1：1年次 アクティブ・ラーニング、コミュニケーション力の向上	
	目標2：2年次 スポーツ、医療健康等について理解を深め、自ら考え、行動する主体的な学習活動を通じて、地域・社会で貢献できる力を身につける。	
	目標3：3年次 スポーツ、医療健康等について理解を深め、自ら考え、行動する主体的な学習活動を通じて、地域・社会で貢献できるリーダーシップを身につける。	
	具体的取組	自己評価
目標1	<p>① コロナウィルスの影響で実施できることを行う。 ○外部講師の調整中</p>	<p>① 救急救命法、アサーションコミュニケーション ・傾聴 ・チームビルディングを実施 ・神戸マラソンボランティアに参加した</p>
目標2	<p>② コロナウィルスの影響で実施できることを行う。 ・コーチング・ティーチング ・他人の気持ちを理解する心のはたらき ・テーピング入門 ・健康なからだをつくるための体カトレーニング ・障害と障害者のとらえ方 ・筋の仕組みを調べる方法 ・レクリエーションの学び ・関節運動について ・外部講師の調整中</p>	<p>② 柔道整復師の仕事 ・身体のしくみ ・競技力向上と食事 ・自主的に生きる ・スポーツの仕事 ・避難所運営ゲーム ・臓器移植・幼児に大切な遊び ・幼児教育について ・保育園との交流実習 ・プレゼン発表を実施 ・神戸マラソンボランティアに参加した</p>
目標3	<p>③ コロナウィルスの影響で実施できることを行う。 ・姿勢は人を劇的に変える ・理学療法士の仕事について ・防災・減災 ・外部講師の調整中 ・手話講座 ・地域交流 わかばの森保育園 2回 ・卒業論文</p>	<p>③ 理学療法士について ・姿勢は劇的に人を変える ・対人援助職の心のケアについて ・スポーツ栄養学 ・筋肉と骨格筋について ・防災・減災について ・手話講座 ・臓器医療について ・モチベーションのあげ方 ・卒業論文等を実施</p>